



く る わ つ う し ん

QURUWA通信



籠田公園特集！

籠田公園がリニューアル！ どんな風になるの？

あなたは、まちとどう過ごす？

籠田公園がリニューアル！どんな風になるの？

QURUWAの北東に位置する籠田公園のリニューアル工事を進めています！

これからどんな場所になり、どんな風に過ごすことができるの？ということを一足先にご紹介します！



籠田公園はもともと、戦災で中心市街地が焼けたことをきっかけに昭和33年に整備され、約60年が経ちました（籠田公園の入り口にある鳩の像に「戦災復興之碑」と書いてありますね）。岡崎／康生の中心にあり、多くの人々にとって思い出の詰まった特別な公園です。地域の人々の憩いの場として日常的に使われるほか、ステージや芝生広場では様々なイベントが開かれ、多くの人たちに親しまれてきました。新しくなる籠田公園もまた日常的に楽しむことができるのももちろん、市外の友人や観光客にも自慢できる新しい「岡崎の顔」となる場所を目指して市民と共に考えてきました。これからも、たくさんの人たちが籠田公園を行きかい、つどい、つながり、このまちが未来へとつづくことを願い計画された内容をのぞいてみましょう！



新しい籠田公園のコンセプトは「つどい、つながり、つづく」場所

①昔も今もいろんな立場の人々が「つどう」場所

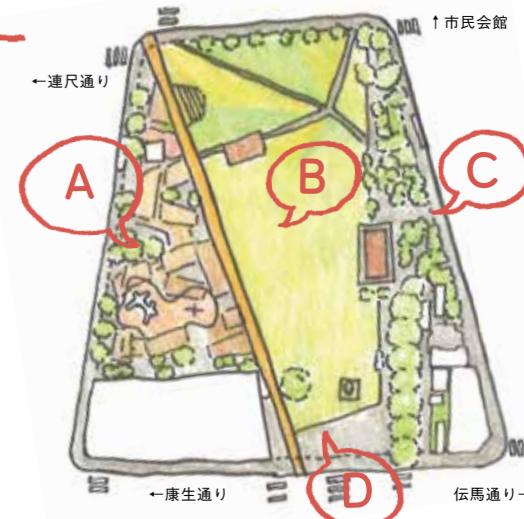
遊具や噴水、勉強や会議など様々な目的で市民が訪れ、イベントだけに頼らずに日常的に市民に使われる場所として、また一人でも大勢でも気持ちよく居られる場所として人々が集うよう計画された籠田公園は地元や市内だけでなく、市外から訪れる人を迎える場所となります。

②様々な世代の人々が一緒にいることで「つながり」が生まれる場所

子育て中のお母さん、小中高校生、サラリーマン、近所のお爺ちゃんお婆ちゃん、そして訪れる観光客らがちょうど良い距離感で一緒に過ごせる場所をつくりました。ここで過ごす人たちの姿が、訪れる人にとっての「岡崎の顔」となります。

③未来へまちが「つづく」きっかけになる場所

地域の人や岡崎市民、市外からの観光客など様々な人がこの場所に集い、「人とモノ」ではなく「人と人」が繋がって楽しみ、喜び、知り、考え、地域の問題も解決することで、歴史があるこのまちがこれからも未来へつづくきっかけが生まれるよう計画されました。



ブロックごとの
設計コンセプト

A 旧東海道に面した「まちの縁側」空間

- 多くの屋根と木立に囲まれ、雨の日でも晴れの日でも気持ちよく過ごせるこの場所は、まちの延長として様々な市民活動を受け入れる「まちの縁側」となります。
- 連尺通りや二七市通りと連携することで旧東海道沿いの軒先き空間として賑わいを連続させます。

C 芝生広場と対で活ける「緑陰の広場」

- 元々ある木立を残しながら、四季を感じられる植物を新たに追加して落ち着きのある緑陰空間を作りました。
- 高木の下には低木植栽を植えることで木々や生き物にとって良好な環境をつくり、都市で暮らす人々にとっても小さな自然の気づきがある場所を目指します。（木々、野鳥と市民が共存できる場所）

B 「芝生の広場」＝「市民活動」 ＝「公園のシンボル」

- 今までに市民の手で大切に管理されてきた芝生広場は、リニューアルしても引き続き籠田公園のシンボルとなり、ここで楽しみ集う市民の姿こそが新しい「まちの顔」となります。
- 北側に配置される芝生のマウンド（築山）は乙川対岸の丘陵地まで見渡すことができ、もちろん寝転んだりすべて遊ぶことができます。

D 中央緑道から公園へのエントランス広場

- 戦後復興のシンボル（平和祈念の碑）を継承しています。
- イベント時の車の乗り入れや、祭りの際の棧敷席など多様な使いができるように舗装された広場としています。



住民の方を中心に籠田公園の関わり方について考えました！

地域と密接な関わりがあった籠田公園

かつては町内連合の盆踊りが開催されたり、近くのおもちゃ屋さんで花火を買った子どもが遊んでいたり、地域の人にとっても繋がりが深い公園でしたが、近年高齢化が進んだことなどが原因で、繋がりが希薄になってしまいました。

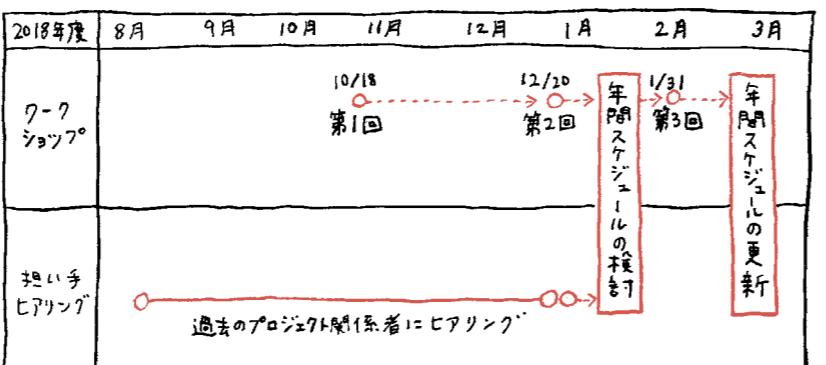
今回の再整備で籠田公園がリニューアルすることをきっかけに、地域にお住まいの方々と、公園のあり方、使い方、管理への関わり方などを話しながら、改めて籠田公園との関わり方を考えてみるワークショップ（以下、WS）を行いました。

あなたは新しい籠田公園と

どうかかわりますか？

籠田公園の使い方や関わり方を考えるワークショップ第1回では、2019年夏に完成する籠田公園で、地域の皆さんが何を大切にしていきたいかを語り合い、第2回では地域の課題を共有した上で具体的な活用アイデアを出し合いました。

そして、第3回では「籠田公園の活用イメージを共有しよう！」と題して、籠田公園を活用したい地域外の有志も交えて活用アイデアの具体化を行い、籠田公園とのかかわり方を見つめ直し、活用イメージを高めることができました。



他の公園の事例を聞いたり



地域の課題を考えたり



アイデアを出したり



発表もしました！

第1回「新しい籠田公園で何をする？」

第1回は、新しい籠田公園がどんな風になるのか、基本的な情報の共有をメインに行われました。はじめに岡崎市の担当課から、これから籠田公園を運営していくうえで参考となる他地域の2つの公園が紹介されました。その後、参加いただいた地域のみなさんが新しい籠田公園とこれからどのように関わっていくか、何を大切にしていきたいかなどをグループに分かれて話し合いました。



日程：2018年10月18日
場所：興蓮寺

話し合いのまとめ

●活力あふれるお祭りを核に、地域のつながりを高める使い方を大切にしよう！

籠田公園近隣の5町内で合同の盆踊りを開催するなど、町内の枠を超えた住民交流の場として活用する。

●「ゴミが落ちていない綺麗な公園の維持」と「住民同士のつながりづくり」をつなごう！

月1回の「お掃除の日」をつくるなど、地道な活動を通じて人々が出会う交流場として活用する。

●多様な世代の視点から使い方を考えて公園の管理運営をする仕組みを考えよう！

子どもの自転車練習、高齢者のペット連れ等を受け入れる方法を考える。

第2回「籠田公園の活用アイデアを出し合おう！」

日程：2018年12月20日
場所：興蓮寺

話し合いのまとめ

●気軽に参加できる催しを定期的にやっていこう！

公園の日常的な使い方の例として、清掃やラジオ体操は全てのチームからアイデアがありました。籠田公園周辺では急激な高齢化が進んでいるので、孤立を防ぎ、住民同士のつながりをつくるような公園活用が必要である。

●事業者や大学とも連携して魅力的なプログラム開発を進めていこう！

デイサービスをやっている事業者と連携する、「アウトドアデイサービス」や、大学と連携して、異なる世代で交流するイベント等の提案が出された。

●地域の人の思いを実現するための話し合いの場について考えよう！

例えば盆踊りや、花火の持ち寄り、芋煮会などをやりたい住民の思いを受け止めて、実現してくれる人との間に立って実施を支援するというつなぎを担う場が必要。



第3回「籠田公園の活用イメージを共有しよう！」

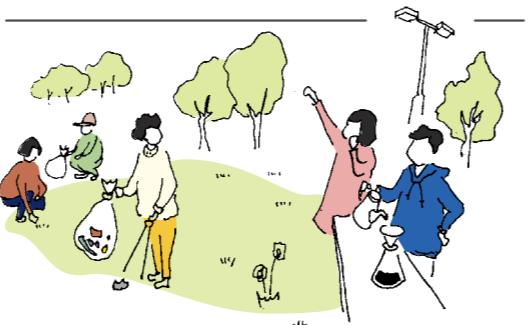
第3回は、地域の住民のみなさんに加え、過去の QURUWA プロジェクトに関わりのあった人の中から、地域の垣根を越えて籠田公園を活用したいと考える団体にも参加いただきました。

第2回の WS の話し合いで出たアイデアから見えてきた「A. 定期的な活用」「B. 町内連合イベント」「C. 自主企画イベント」という3種類の分類でグループに分かれ、どのように運営を進めていくかを話し合いました。今回の話し合いでクリーン活動などの定期的な取り組みや、5つの町内会が連合した盆踊り大会の見通しもつけることができたほか、地区外の方々が行うイベントについて事前に地域の住民に情報を共有することの重要性も指摘されました。公園の完成までに、これらの詳細についても考えていきます。



話し合いのまとめ

A. 定期的な活用



住民相互のゆるやかな、つながりをつくる

清掃活動「いつでもおいで」

公園へ愛着がある人を増やして将来的にはゴミが落ちていない公園にするために、これまで「かごめ組」を中心に行われてきた清掃活動を新しい籠田公園にも引き継ぎ、新体制で定期清掃活動を行います。活動への参加は強制にはせず、「無理のない範囲で、できる人・やりたい人が参加」する方式にして、終了後にはコーヒーをいれて休憩するなど、この活動によって住民同士が交流できる場にしたいと考えています。定期的な活動として毎月第2、第4土曜日に行い、まずは朝8:00から始めていく予定です。毎回清掃活動の世話人となる“地元コンシェルジュ”を選出していき、公園内で「今月のコンシェルジュ」や清掃活動の案内を行うなど、少しづつ輪を広げていきたいです。

B. 町内連合イベント



「町内合同盆踊り大会」

地域のコミュニティのつながりがなくなっていることに課題を感じています。住民同士の結束を高めるためには、以前、籠田公園で行われていた町内合同による盆踊りを復活させます。子どもが喜んでくれる企画や踊りやすい曲なども考えて、輪に入っていきにくい子どもや高齢者への声かけにも気を配りたいです。

公園に隣接する5つの町内にある総代同士のつながりをベースに、実行委員会を立ち上げる予定です。

日程：2019年1月31日
場所：岡崎市民会館大会議室

こんな話し合いもありました！

近隣住民と公園利用者の関わりについて
籠田公園の近隣に暮らす人にとっては、イベントがあっても知る術もなく（SNSでの告知では地域の人に届かない）、当日いきなり人が集まって何かが始まる、ということがしばしばある。事前に知っていれば、宣伝したり、協力したり、参加したりもできるし、多少騒がしくても気にならないが、何も知らされないと不信感を抱いてしまうこともある。結果、籠田公園を使う人と近隣に暮らす人の関係が悪くなってしまいかねない。

一方、籠田公園を使おうとする人にとっては、様々な申請、隣接する5町の総代さんの許可、駐車場や公園の使用料の出費など負担が大きい。解決案として、公園を使いたい人の窓口を一つにすることで、手続きを簡単にし、近隣への事前周知の仕組みをつくる。そのため、窓口を担う人（団体）には、公園利用の許可をする権限が必要であり、この窓口を担う人は、近隣住民と公園でイベントなどをしたい人を仲介し、活動のコーディネートや告知のサポートをする「世話人」となる。世話人を無償でやるには限界があるため、収益を確保する仕組みを考えいくべきである。

・・・・・

公園緑地課からのお知らせ



籠田公園に関する話し合いの場を今後も開催していきます。

今年度3回実施したワークショップでの参加者の方の御意見を踏まえて、2019年度も籠田公園に関する話し合いの場（例えば、都市公園法に基づく協議会など）を設けていきます。

その協議会で籠田公園のルールがどんなものであればいいかや、今後の籠田公園の活用について話をていきたいと思っています。

C. 自主企画イベント



よりどころになる

「ミソスープスタンド」

公園の芝生をお手入れする人のベースカフェとして、八丁味噌を使ったミソスープスタンドを営業し、その売上の一部を芝生管理に還元したいです。

(8830 MISO)



お母さんの居場所「りんご箱文庫」

気候のいい5月や6月、9月から11月くらいの月に1回、明るい時間に「りんご箱文庫 in 篠田公園」を実施して、子育てに奮闘している平日のお母さんの居場所をつくりたいです。

(NPO法人暮らしの教育機構)



シニアに向けた

「地域デビューのサポート」

地域のシニアたちが公園に出かけやすいきっかけづくりとして、週に1回「ごまんぞく体操」を呼びかけ、グランドゴルフやネイル、マッサージなどシニア向けの催しが行われるように、サポートしたいです。

(中央地域包括支援センター)



母子で過ごす「ランチ会」

公園で集まってお弁当を食べながら、世代を超えて親睦する場をつくりたいと思います。ほかにも、子育て中のお母さんが輝けるよう、wagamama house で出店したり働いたりするお母さんのお子さんを預かり、その子どもたちと籠田公園で過ごしたいです。

(wagamama house)

「橋の名称」と「通りの愛称」が決まりました！

こうやって決まりました！

①募集

2018年8月から約2ヶ月間の公募期間を設け、岡崎市民をはじめ、県外からも応募していただきました。

期間中は巡回展示も実施しました。

各施設の完成イメージを絵や模型、映像などで展示し、市内施設（地域交流センター等8箇所）を巡回しました。

8月～10月



11月

②選定

「橋の名称」4004件、「通りの愛称」3834件の応募の中から、選定委員会により各5点を選定しました。

12月～2月

③投票

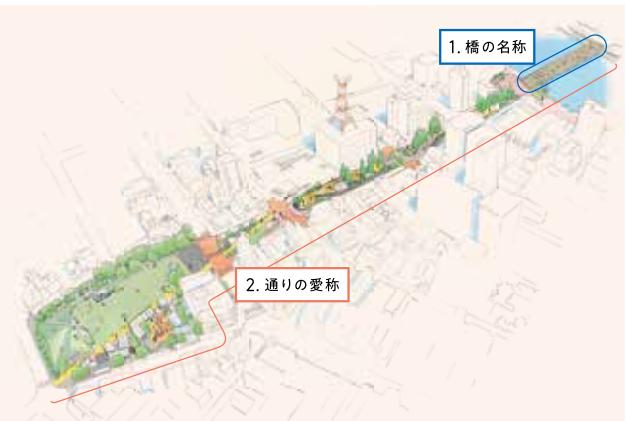
選定された以下の各5点から各1点を選び、投票していました。

「橋の名称」投票候補	「通りの愛称」投票候補
・QURUWA 橋	・岡崎めぐりん通り
・見城大橋	・QURUWA ストリート
・桜城橋	・泰平通り
・姫橋	・天下の道
・WATARIN	・みりん通り

3月

④決定 / 表彰

「橋の名称」7650票、「通りの愛称」7585票から、最多の票を獲得した各1点に決定しました。



2020年に乙川に新たな橋がかかります。また、その橋から籠田公園までを1つの通りとしています。この通りはQURUWA上にあり、今後ここに人が集まり回遊を促す場所になることを目指しています。

＼これに決まりました！／



1. 橋の名称

桜城橋（サクラノシロバシ）

桜の名所である岡崎城を桜の城と例え、その城が見えるので、この名前にしました。また、川の周辺にも桜が植えてあり、桜を強調したいとおもってつけました。

稻垣絢香さん（写真右）

2. 通りの愛称

天下の道（テンカノミチ）

この道を通る時にいろいろな歴史や岡崎の石工の技を見て、歴史にふれながら、昔から今にかけて進化してきた道を大階段テラスから見上げて変化してきた道を楽しむ道のこと。

原田幸奈さん（写真左）



名鉄東岡崎駅、桜城橋、籠田公園、りぶら、岡崎城など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線（主要なまちめぐりルート）。かつての岡崎城跡の「総曲輪（そうぐるわ）」に重なるところがあることと、動線が「Q」の字に見えることから「QURUWA（くるわ）」と表記しています。QURUWAの中で様々なまちづくりを展開し、まちの活性化や暮らしの向上を図ります。

